

科目名	理学療法科学特論Ⅰ																														
科目責任者	根地嶋誠																														
単位数他	2単位（30時間） 選択 春semester																														
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																														
科目概要	解剖学、生理学、神経科学、運動学および運動生理学を中心とした理学療法の基礎学問を学び、実験的な研究手法を用いて理学療法分野の基本となる課題を解決するため、また理学療法士の養成教育、生涯学習における新しい教育手法、教育効果を証明するための科学的な検証技術を学修します。																														
到達目標	1. 実験的な研究手法による研究課題、新しい理学療法教育に関連する先行研究を探索し理解する。 2. 理学療法のトピックスについて、先行研究の抄読や発表、ディスカッションを通じて、課題を明確にし、解決するための具体的方策を説明できる。 3. 研究テーマの背景および目的、それを解決するための研究手法を発表し、ディスカッションできる。																														
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ <table> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、教員紹介</td><td>＜担当教員名＞ 教員全員</td></tr> <tr> <td>第2回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>根地嶋誠</td></tr> <tr> <td>第3回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>根地嶋誠</td></tr> <tr> <td>第4回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>根地嶋誠</td></tr> <tr> <td>第5回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>大城昌平</td></tr> <tr> <td>第6回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>大城昌平</td></tr> <tr> <td>第7回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>矢倉千昭</td></tr> <tr> <td>第8回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>矢倉千昭</td></tr> <tr> <td>第9回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>矢倉千昭</td></tr> <tr> <td>第10回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>有菌信一</td></tr> <tr> <td>第11回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>有菌信一</td></tr> <tr> <td>第12回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>吉本好延</td></tr> <tr> <td>第13回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>吉本好延</td></tr> <tr> <td>第14回：文献紹介、課題発表、ディスカッション</td><td>金原一宏</td></tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td><td>金原一宏</td></tr> </table> 第1回目の授業で、授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。第2回目以降は、授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行っていきます。 研究進捗状況報告会、研究計画報告会の開催前の授業では、受講者と教員が全員参加し、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。	第1回：オリエンテーション、教員紹介	＜担当教員名＞ 教員全員	第2回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	根地嶋誠	第3回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	根地嶋誠	第4回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	根地嶋誠	第5回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	大城昌平	第6回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	大城昌平	第7回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	矢倉千昭	第8回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	矢倉千昭	第9回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	矢倉千昭	第10回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	有菌信一	第11回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	有菌信一	第12回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	吉本好延	第13回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	吉本好延	第14回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	金原一宏	第15回：まとめ	金原一宏
第1回：オリエンテーション、教員紹介	＜担当教員名＞ 教員全員																														
第2回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	根地嶋誠																														
第3回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	根地嶋誠																														
第4回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	根地嶋誠																														
第5回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	大城昌平																														
第6回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	大城昌平																														
第7回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	矢倉千昭																														
第8回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	矢倉千昭																														
第9回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	矢倉千昭																														
第10回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	有菌信一																														
第11回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	有菌信一																														
第12回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	吉本好延																														
第13回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	吉本好延																														
第14回：文献紹介、課題発表、ディスカッション	金原一宏																														
第15回：まとめ	金原一宏																														

学修方法	事前の文献レビュー，プレゼンテーション，ディスカッションにて行う。
評価方法	課題の取り組み（50%），プレゼンテーション（50%）
課題に対するフィードバック	各回のプレゼンテーション時にフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	各回，各自のテーマに関する先行研究のレビュー等，発表に必要な準備を 60 分程度はすること。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション科学研究科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法科学特論Ⅱ																																
科目責任者	金原一宏																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋																																
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																																
科目概要	解剖学、生理学、神経科学、運動学および運動生理学を中心とした理学療法の基礎学問を学び、実験的な研究手法を用いて理学療法分野の基本となる課題を解決するため、研究機器の測定方法、データの読み方および解析手法など、実験的研究で必要な技術について学修します。																																
到達目標	1. 理学療法科学特論Ⅰで学んだ、実験的な研究方法で用いられる測定機器の基本原理と測定方法、データの信頼性と妥当性の検証について説明できる。 2. 実験的研究法による簡単な研究計画を作成、データを測定し統計学的分析を行い、研究結果をまとめ、発表、ディスカッションができる。																																
授業計画	<担当教員名> 金原一宏、大城昌平、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠 <table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、教員紹介</td><td>金原一宏</td></tr> <tr> <td>第2回：測定機器の学修と研究計画の作成①</td><td>金原一宏</td></tr> <tr> <td>第3回：データ測定①</td><td>金原一宏</td></tr> <tr> <td>第4回：データ分析と発表準備①</td><td>金原一宏</td></tr> <tr> <td>第5回：測定機器の学修と研究計画の作成②</td><td>有菌信一</td></tr> <tr> <td>第6回：データ測定②</td><td>有菌信一</td></tr> <tr> <td>第7回：データ分析と発表準備②</td><td>有菌信一</td></tr> <tr> <td>第8回：測定機器の学修と研究計画の作成③</td><td>根地嶋誠</td></tr> <tr> <td>第9回：データ測定③</td><td>根地嶋誠</td></tr> <tr> <td>第10回：データ分析と発表準備③</td><td>根地嶋誠</td></tr> <tr> <td>第11回：測定機器の学修と研究計画の作成④</td><td>吉本好延</td></tr> <tr> <td>第12回：データ測定④</td><td>吉本好延</td></tr> <tr> <td>第13回：データ分析と発表準備④</td><td>吉本好延</td></tr> <tr> <td>第14回：発表とディスカッション</td><td>矢倉千昭</td></tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td><td>大城昌平</td></tr> </tbody> </table> 第1回目の授業で、授業参加者の関心のある研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。 第2回目以降は、学内にある機器の測定方法を学び、授業プランに沿って実際に簡単な研究計画を立て、データを測定し、発表とディスカッションを行います。 研究進捗状況報告会、研究計画報告会の開催前の授業では、受講者と教員が全員参加し、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。余裕を持って授業計画を立ててください。	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション、教員紹介	金原一宏	第2回：測定機器の学修と研究計画の作成①	金原一宏	第3回：データ測定①	金原一宏	第4回：データ分析と発表準備①	金原一宏	第5回：測定機器の学修と研究計画の作成②	有菌信一	第6回：データ測定②	有菌信一	第7回：データ分析と発表準備②	有菌信一	第8回：測定機器の学修と研究計画の作成③	根地嶋誠	第9回：データ測定③	根地嶋誠	第10回：データ分析と発表準備③	根地嶋誠	第11回：測定機器の学修と研究計画の作成④	吉本好延	第12回：データ測定④	吉本好延	第13回：データ分析と発表準備④	吉本好延	第14回：発表とディスカッション	矢倉千昭	第15回：まとめ	大城昌平
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：オリエンテーション、教員紹介	金原一宏																																
第2回：測定機器の学修と研究計画の作成①	金原一宏																																
第3回：データ測定①	金原一宏																																
第4回：データ分析と発表準備①	金原一宏																																
第5回：測定機器の学修と研究計画の作成②	有菌信一																																
第6回：データ測定②	有菌信一																																
第7回：データ分析と発表準備②	有菌信一																																
第8回：測定機器の学修と研究計画の作成③	根地嶋誠																																
第9回：データ測定③	根地嶋誠																																
第10回：データ分析と発表準備③	根地嶋誠																																
第11回：測定機器の学修と研究計画の作成④	吉本好延																																
第12回：データ測定④	吉本好延																																
第13回：データ分析と発表準備④	吉本好延																																
第14回：発表とディスカッション	矢倉千昭																																
第15回：まとめ	大城昌平																																

学修方法	院生間で課題解決（論文の検索、研究方法の吟味、データの測定と解析）を図る
評価方法	課題の取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）
課題に対するフィードバック	各担当教員より、発表とディスカッションの際、フィードバックする
指定図書	なし
事前・事後学修	測定機器の原理、先行研究での測定方法、信頼性と妥当性の検証などを理解し、測定を実施する
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します

科目名	理学療法科学特論演習
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	理学療法科学特論をふまえ、理学療法の対象となる事象について科学的に検証できるように研究計画立案する。研究テーマに関連する先行研究の収集および批判的吟味を行い、概念枠組みを作成しながら、テーマおよび周辺状況の現状と課題を、グループディスカッションを通じて明らかにする。また、研究仮説を検証するための方法論を検討し、研究計画書の作成を行う。
到達目標	1. 自身の研究テーマに関する文献を批判的に吟味して理解し、テーマを設定する。 2. 研究テーマの現状と課題を明らかにし、概念枠組みから研究計画書を立案する。 3. 研究計画書（倫理委員会申請書を含む）を作成し、研究の実施計画を立てる。
授業計画	<担当教員名> 根地嶋誠、大城昌平、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、金原一宏（すべての授業を全教員で担当する） <授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの設定、関連図の作成(1) 第3回：研究テーマの設定、関連図の作成(2) 第4回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(1) 第5回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(2) 第6回：先行研究の調査と整理(1) 第7回：先行研究の調査と整理(2) 第8回：先行研究の調査と整理(3) 第9回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(1) 第10回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(2) 第11回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(3) 第12回：研究計画の作成(1) 第13回：研究計画の作成(2) 第14回：予備研究と倫理申請書の作成(1) 第15回：予備研究と倫理申請書の作成(2)

学修方法	文献レビュー，プレゼンテーション，ディスカッションを実施する。
評価方法	課題のプレゼンテーション（30%）、研究計画の立案（20%）、研究計画書（倫理委員会申請書を含む）の完成（30%）、予備実験の実施（20%）
課題に対するフィードバック	各回のプレゼンテーション時にフィードバックを行う。計画書等の文書等の提出毎にフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索、精読し、独創的な研究テーマや研究方法について、知識及び理解を進めること。授業を通じ、研究テーマおよび研究方法を検討し、研究計画書および実験を進めてください。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション科学研究科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法開発学特論Ⅰ
科目責任者	吉本好延
単位数他	2単位（30時間）選択 春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法について、臨床での疑問、課題を解決するための科学的理論を背景とする検証技術を学修し、新たな理学療法の評価および治療法を開発するための基本的な基盤を作ります。さらに、質的および量的研究、ケーススタディ、観察および介入研究などの臨床研究で必要な研究方法、効果検証を学修します。
到達目標	4. 実験的な研究手法による研究課題、新しい理学療法教育について、先行研究を探索し、研究の背景および目的、それを解決するための研究手法を発表し、ディスカッションできる。 5. 「臨床研究に関する倫理指針」（厚生労働省）を通じて、臨床研究者に対する倫理教育が理解できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞ 第1回 オリエンテーション、教員紹介 教員全員 第2回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 吉本好延 第3回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 吉本好延 第4回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 吉本好延 第5回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 大城昌平 第6回 文献紹介、課題発表、ディスカッション 大城昌平 第7回 責任ある研究行為 根地嶋誠 第8回 人を対象とした研究 根地嶋誠 第9回 責任ある研究行為 矢倉千昭 第10回 研究の安全性 矢倉千昭 第11回 実験動物の取り扱い 金原一宏 第12回 米国臨床試験実施基準(GCP) 金原一宏 第13回 米国被験者保護局(OHRP) 有蘭信一 第14回 国内 IRB と米国 OHRP 有蘭信一 第15回 まとめ 吉本好延

学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、各授業テーマについて事前学習を行い積極的な授業参加をお願いします。
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	時間割を参照して、各授業におけるテーマを事前に学習し、授業に参加してください。
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17 時～18 時

科目名	理学療法開発学特論Ⅱ	
科目責任者	有菌 信一	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋	
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。	
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法について、臨床での疑問、課題を解決するための科学的理論を背景とする検証技術を学修し、新たな理学療法の評価および治療法を開発するための基本的な基盤を作ります。さらに、質的および量的研究、ケーススタディ、観察および介入研究などの臨床研究で必要な研究方法、効果検証を学修します。	
到達目標	実験的な研究手法による研究課題、新しい理学療法教育について、先行研究を探索し、研究の背景および目的、それを解決するための研究手法を発表し、ディスカッションできる。	
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞	
	第 1 回	オリエンテーション 有菌信一
	第 2 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 有菌信一
	第 3 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 有菌信一
	第 4 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 大城昌平
	第 5 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 大城昌平
	第 6 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 矢倉千昭
	第 7 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 矢倉千昭
	第 8 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 矢倉千昭
	第 9 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 吉本好延
	第 10 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 吉本好延
	第 11 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 金原一宏
	第 12 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 金原一宏
	第 13 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 根地嶋誠
	第 14 回	文献紹介, 課題発表, ディスカッション 根地嶋誠
	第 15 回	まとめ 有菌信一
	第 1 回目の授業で、授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第 1 回目の授業に参加してください。第 2-15 回目までは、授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行います。	

学修方法	第1回目の授業で、授業参加者の関心のある領域に関連した研究について検討し、授業全体のプランニングをします。事前に各自の関心テーマを考え、第1回目の授業に参加してください。第2-15回目までは、授業プランに沿った文献紹介とテーマに関する課題発表を輪番で行います。
評価方法	課題の取り組み (50%), プレゼンテーション (50%)
課題に対するフィードバック	論文の検索、研究方法の吟味、データの測定と解析、発表とディスカッション
指定図書	なし
事前・事後学修	授業課題、研究課題に関係する論文などを探索し、理学療法に関する研究領域を学び、修士研究のテーマ、研究方法を検討する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。

科目名	理学療法開発学特論演習																														
科目責任者	吉本 好延																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春																														
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。																														
科目概要	理学療法開発学特論を踏まえて、臨床理学療法の発展に貢献する評価や治療の開発を目的とした研究計画を立案する。研究テーマに関連する先行研究の収集および批判的吟味を行い、関連図を作成しながら、各分野の現状と課題を、グループディスカッションを通じて明らかにする。また、研究仮説を検証するための方法論を検討し、研究計画書の作成を行う。																														
到達目標	1. 自身の研究テーマを設定し、関連図を作成する。 2. 研究テーマに関連する先行研究を調査し、現状と課題を明らかにする。 3. 研究仮説を明らかにするための研究計画書を作成し、倫理申請の準備を行う。																														
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞ ＜担当教員名＞ 吉本好延、大城昌平、矢倉千昭、有蘭信一、根地嶋誠、金原一宏（指導教員が中心に授業を展開し、教員全員が参加する検討会が行われる） <table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第2回：研究テーマの設定、関連図の作成(1)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第3回：研究テーマの設定、関連図の作成(2)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第4回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(1)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第5回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(2)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第6回：先行研究の調査と整理(1)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第7回：先行研究の調査と整理(2)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第8回：先行研究の調査と整理(3)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第9回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(1)</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第10回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(2)</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第11回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(3)</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第12回：研究計画の作成(1)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第13回：研究計画の作成(2)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第14回：予備研究と倫理申請書の作成(1)</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第15回：予備研究と倫理申請書の作成(2)</td><td>指導教員</td></tr> </table>	第1回：オリエンテーション	指導教員	第2回：研究テーマの設定、関連図の作成(1)	指導教員	第3回：研究テーマの設定、関連図の作成(2)	指導教員	第4回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(1)	指導教員	第5回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(2)	指導教員	第6回：先行研究の調査と整理(1)	指導教員	第7回：先行研究の調査と整理(2)	指導教員	第8回：先行研究の調査と整理(3)	指導教員	第9回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(1)	教員全員	第10回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(2)	教員全員	第11回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(3)	教員全員	第12回：研究計画の作成(1)	指導教員	第13回：研究計画の作成(2)	指導教員	第14回：予備研究と倫理申請書の作成(1)	指導教員	第15回：予備研究と倫理申請書の作成(2)	指導教員
第1回：オリエンテーション	指導教員																														
第2回：研究テーマの設定、関連図の作成(1)	指導教員																														
第3回：研究テーマの設定、関連図の作成(2)	指導教員																														
第4回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(1)	指導教員																														
第5回：仮説の設定と仮説の検証までの流れの理解(2)	指導教員																														
第6回：先行研究の調査と整理(1)	指導教員																														
第7回：先行研究の調査と整理(2)	指導教員																														
第8回：先行研究の調査と整理(3)	指導教員																														
第9回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(1)	教員全員																														
第10回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(2)	教員全員																														
第11回：研究仮説を明らかにするための研究方法の検討(3)	教員全員																														
第12回：研究計画の作成(1)	指導教員																														
第13回：研究計画の作成(2)	指導教員																														
第14回：予備研究と倫理申請書の作成(1)	指導教員																														
第15回：予備研究と倫理申請書の作成(2)	指導教員																														

学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、積極的な授業参加をお願いします。
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	事前学習は、自身の興味関心のある分野の論文等を探索し、研究テーマの現状を明らかにしてください。事後学習は、一連の研究の流れを踏まえて、独創的研究テーマの設定および研究仮説を明らかにするための研究方法を検討し、研究計画書を完成させてください。
オフィスアワー	3509 研究室 毎週水曜日 17 時～18 時

科目名	理学療法学特別研究	
研究指導教員	有菌信一、大城昌平、矢倉千昭、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏 (研究指導教員は領域および課題によって決まる)	
研究指導教員		
単位数他	8 単位数 (120 時間) 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	研究計画書にもとづき、データ集や論文作成など研究プロセスを経験し、科学的根拠に基づいた理学療法評価・治療の立案を目的とした臨床理学療法研究を行い、修士論文を作成する。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)
	1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。	発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。	研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)
	2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。	論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の貞節性 (30%)

学修方法	個別指導と、院生全体ミーティングにより各自の研究進捗を確認する。
評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	なし
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や論文作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。
オフィスアワー	初回授業時に提示

科目名	作業療法科学特論Ⅰ		
科目責任者	小田原悦子		
単位数他	2 単位（30 時間） 領域所属学生必修・他領域学生選択 春セメスター		
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。		
科目概要	作業療法の実践、教育、研究の基盤となる作業科学及び作業療法諸理論について、その概念枠組み、評価法、実践的研究等について学ぶ。		
到達目標	・ 作業科学及び作業療法の核となる概念を学ぶ ・ 主要な理論を学ぶ ・ 先人の研究を購読し、概念や理論を理解する		
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>
	第 1 回：オリエンテーション：このコース全体の説明		小田原悦子
	第 2 回：作業を研究する学問としての作業科学 作業療法と作業科学の歴史		小田原悦子
	第 3 回：科学革命の構造と米国及び日本の作業療法パラダイムの変遷（1）		宮前珠子
	第 4 回：科学革命の構造と米国及び日本の作業療法パラダイムの変遷（2）		宮前珠子
	第 5 回：作業科学の人の見方： 個人に焦点を置いた作業の見方社会的視点からの作業の見方		小田原悦子
	第 6 回：作業的公正		小田原悦子
	第 7 回：理論の発展過程と理論の範囲（1）		宮前珠子
	第 8 回：理論の発展過程と理論の範囲（2）		宮前珠子
	第 9 回：作業の要素、作業過程、作業の力(他の現象との関係)（1）		小田原悦子
	第 10 回：作業の要素、作業過程、作業の力(他の現象との関係)（2）		小田原悦子
	第 11 回：学問の序列と保健医療専門職及び研究アプローチ（1）		宮前珠子
	第 12 回：学問の序列と保健医療専門職及び研究アプローチ（2）		宮前珠子
	第 13 回：質的研究 理論と実際(1)		濱畑章子
	第 14 回：質的研究 理論と実際(2)		濱畑章子
第 15 回：学生抄読		小田原悦子	

学修方法	講義、グループディスカッション、レジュメ作成、発表
評価方法	授業・ディスカッションへの参加（発言内容・論理性・量・態度）：50% 発表とレジュメ：25% レポート：25%
課題に対するフィードバック	クラスのディスカッションとレポートにて、自分の研究疑問を深めるようにコメントが与えられる
指定図書	1. 作業科学：Zemke & Clark 編 1999、三輪書店
参考書	1. トマスカーン：科学革命の構造. みすず書房 2. チェックランド：新しいシステムアプローチ. オーム社 3. 宮前珠子：作業療法理論の成り立ちと位置づけ. 作業療法のとらえ方 part 2. 1-9.. 文光堂
事前・事後学修	各回の授業に関連する指定図書の部分を読んでから、参加する。
オフィスアワー	科目責任者は、リハビリテーション科学、小田原悦子です。研究室は 3516 研究室です。オフィスアワーの曜日と時間は初回授業時間に提示します。

科目名	作業療法科学特論Ⅱ																		
科目責任者	宮前 珠子																		
単位数他	2 単位 (30 時間) 領域所属学生必修・他領域学生選択 秋semester																		
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																		
科目概要	作業療法専門職の実践、教育、研究の基盤となる作業科学及び作業療法諸理論について、その概念枠組み、評価法、実践的研究等について学ぶ。																		
到達目標	1. 受講者が近年の作業療法科学の知識・理論の進歩について説明出来る 2. 受講者がクライアントの作業的問題を捉え分析、評価できる 3. 受講者が OT として作業的存在としてクライアントを捉えることの重要性を理解する																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1- 2 回：作業療法理論の概観、実践モデル</td><td>宮前珠子</td></tr> <tr> <td>第 3- 4 回： 作業的写真</td><td>小田原悦子</td></tr> <tr> <td>第 5- 6 回：概念的実践モデル</td><td>宮前珠子</td></tr> <tr> <td>第 7- 8 回：作業の生物学的側面</td><td>小田原悦子</td></tr> <tr> <td>第 9-10 回：関連知識、実践での理論の利用</td><td>宮前珠子</td></tr> <tr> <td>第 11-12 回：作業の文化社会的側面</td><td>小田原悦子</td></tr> <tr> <td>第 13-14 回：OT I PM、AMP S、E S I</td><td>吉川ひろみ</td></tr> <tr> <td>第 15 回：日課と習慣</td><td>小田原悦子</td></tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1- 2 回：作業療法理論の概観、実践モデル	宮前珠子	第 3- 4 回： 作業的写真	小田原悦子	第 5- 6 回：概念的実践モデル	宮前珠子	第 7- 8 回：作業の生物学的側面	小田原悦子	第 9-10 回：関連知識、実践での理論の利用	宮前珠子	第 11-12 回：作業の文化社会的側面	小田原悦子	第 13-14 回：OT I PM、AMP S、E S I	吉川ひろみ	第 15 回：日課と習慣	小田原悦子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第 1- 2 回：作業療法理論の概観、実践モデル	宮前珠子																		
第 3- 4 回： 作業的写真	小田原悦子																		
第 5- 6 回：概念的実践モデル	宮前珠子																		
第 7- 8 回：作業の生物学的側面	小田原悦子																		
第 9-10 回：関連知識、実践での理論の利用	宮前珠子																		
第 11-12 回：作業の文化社会的側面	小田原悦子																		
第 13-14 回：OT I PM、AMP S、E S I	吉川ひろみ																		
第 15 回：日課と習慣	小田原悦子																		

学修方法	講義、グループディスカッション、グループワーク、発表
評価方法	授業・ディスカッションへの参加（発言内容・論理性・量・態度）：５０％ 発表とレジュメ：２５％ レポート：２５％
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント、返却
指定図書	１．キールホフナー：作業療法実践の理論．医学書院 2014
参考書	１．作業科学：Zenke & Clark 編 １９９９、三輪書店 ２．人間作業モデル：Kielhofner、２０１２、協同医書 ３．作業療法の視点：カナダ OT 協会、２０００、大学教育出版 ４．クライアント中心の作業療法：Baptist、２０００、協同医書
事前・事後学修	教科書、参考書、資料等を読み、レジュメにまとめる
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科 ５６０４研究室 時間については、初回授業時にお伝えします

科目名	作業療法科学特論演習
科目責任者	宮前珠子
単位数他	2単位 (30 時間) 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	各自の研究疑問を明らかにし、研究疑問に関する文献を検索、読み、文献カードを作成、文献のレビューとディスカッションを通して研究目的、方法を明確にし、研究計画を完成させる
到達目標	研究のプロセスについて説明出来る c 自身の研究テーマに関連する先行研究をレビューし作業療法分野にとって意義深い研究テーマを設定する A 取り組むテーマに適切な研究方法を決め、研究計画書を作成し、倫理申請の準備をする P
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 研究のプロセスと研究方法 第 2 回：研究疑問の発表とディスカッション 第 3 回： // 第 4 回：関心テーマについて発表とディスカッション 第 5 回： // 第 6 回：研究課題についての発表とディスカッション 第 7 回： // 第 8 回： // 第 9 回：研究方法についての発表とディスカッション 第 10 回： // 第 11 回： // 第 12 回：研究計画書についての発表とディスカッション 第 13 回： // 第 14 回： 倫理申請について 第 15 回： まとめ

学修方法	発表、グループディスカッション、コメント・講義
評価方法	発表内容 20% ディスカッションへの参加（発言内容・論理性・量・積極性）：20% 研究計画書の完成度：60%
課題に対するフィードバック	ルーブリックを作成し、その基準を用いてフィードバックする 書面の提出物に対してはコメントを付け返却する
指定図書	① 土屋雅子他：看護/医療系研究のためのアンケート面接調査ガイド。診断と治療社.2011. ② 鎌倉・宮前・清水：作業療法士のための研究法入門。協同医書出版社。1997. ③Baily：保健 医療のための研究法入門。協同医書。2001. ④ホロウェイ他：ナースのための質的研究入門。第2版。医学書院。2006. ⑤オモクレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール。医学書院。2008.⑥佐久川肇：質的研究のための現象学入門。医学書院、2009.⑦西條剛央：ライブ講義質的研究とは何か。新曜社 2007.⑧酒井隆：アンケート調査と統計解析が分かる本。日本能率協会。2003
参考書	① 砂原茂一：臨床医学研究序説。医学書院。1988。②数間・岡谷・河：看護研究のすすめ方・よみ方、つかい方。日本看護協会出版会。1997.③箕浦康子：フィールドワーク入門。ミネルヴァ書房。1999。その他その都度提示
事前・事後学修	毎回発表について準備、レジュメもしくはパワーポイントを作成し発表する
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科 5604研究室 時間については、初回授業時にお伝えします

科目名	作業療法科学特論演習
科目責任者	小田原悦子
単位数他	2 単位（30 時間）選択 領域所属学生必修 春セメスター
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	作業科学の概念を使った、作業療法領域に貢献する先行研究の研究法を検討する。 作業、経験を理解するための方法論としてのナラティブを理解し、ナラティブ研究を使った小規模な研究を実践する。
到達目標	作業的存在としての人間を研究するときによく使われる、質的研究、現象学的研究、ナラティブ分析について学ぶ。自分の研究では、どのように利用できるか検討する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1～2 回 研究法について 第 3～4 回 自分の関心と方法を絞り込む 第 5～6 回 質的研究、現象学的研究、その他の研究 第 7～9 回 方法としてのナラティブ ナラティブについての理論と分析実践 第 10 回 学生発表：ミニスタディーの発表 第 11～14 回 自分の研究のテーマと方法を探る 第 15 回 学生発表 研究案

学修方法	先行論文の購読、クラスのディスカッションを通して、自分の研究疑問、方法を探索する
評価方法	授業態度 20%、発表 40%、レポート 40%
課題に対するフィードバック	クラスのディスカッションとレポートにて、自分の研究疑問を深めるようにコメントが与えられる
指定図書	Zemke & Clark 編「作業科学」、 グレッグ、麻原、横山 著「質的研究の進め方・まとめ方」
参考書	箕浦康子著「フィールドワークの技法と実際」、「フィールドワークの技法と実際Ⅱ」
事前・事後学修	各回の授業に関連する指定図書の部分を読んでから、参加する。
オフィスアワー	科目責任者は、リハビリテーション科学、小田原悦子です。研究室は 3516 研究室です。オフィスアワーの曜日と時間は初回授業時間に提示します。

科目名	作業療法開発学特論Ⅰ																														
科目責任者	田島 明子																														
単位数他	2単位(30 時間) 選択 春																														
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																														
科目概要	作業療法関連領域における最新の研究動向に触れ、臨床における解決すべき課題について検討する。また研究論文の精読を通じて、研究疑問をどのように検証可能な形で表現するか、データに基づく分析とはどのようなものか、研究の基本的要素について理解することを目指す。																														
到達目標	1. 各専門領域における保健医療福祉の動向と研究課題について説明できる 2. 研究論文の基本的構成要素について説明できる																														
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞ 担当教員：田島明子、新宮尚人、伊藤信寿、泉良太 教員より各専門領域における最新の研究動向について解説する。履修生は、それを踏まえ関連する国内・外の文献を読み、内容について簡単なレジュメを作成して紹介する。文献を通じて、研究疑問の操作定義、データ収集と分析方法、結果の記述と解釈など、研究論文の基本的構成要素を理解することで自身の研究計画立案の足がかりとする。 ※少なくとも1つの領域で1文献を紹介する。 履修生の専攻・関心により文献選択の相談に応じる。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第1回. オリエンテーション 作業療法研究に社会学・障害学の視点を活かす </td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">田島明子</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第2回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">田島明子</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第3回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">田島明子</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第4回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3・まとめ</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">田島明子</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第5回. 精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第6回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第7回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第8回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">新宮尚人</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第9回. 発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第10回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第11回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第12回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第13回. 身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">泉良太</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第14回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">泉良太</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第15回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2</td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;">泉良太</td> </tr> </table>	第1回. オリエンテーション 作業療法研究に社会学・障害学の視点を活かす	田島明子	第2回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	田島明子	第3回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	田島明子	第4回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3・まとめ	田島明子	第5回. 精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	新宮尚人	第6回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	新宮尚人	第7回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	新宮尚人	第8回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	新宮尚人	第9回. 発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	伊藤信寿	第10回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	伊藤信寿	第11回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	伊藤信寿	第12回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	伊藤信寿	第13回. 身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	泉良太	第14回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	泉良太	第15回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	泉良太
第1回. オリエンテーション 作業療法研究に社会学・障害学の視点を活かす	田島明子																														
第2回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	田島明子																														
第3回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	田島明子																														
第4回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3・まとめ	田島明子																														
第5回. 精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	新宮尚人																														
第6回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	新宮尚人																														
第7回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	新宮尚人																														
第8回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	新宮尚人																														
第9回. 発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	伊藤信寿																														
第10回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	伊藤信寿																														
第11回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	伊藤信寿																														
第12回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	伊藤信寿																														
第13回. 身体障害リハビリテーションにおける最新の研究動向について	泉良太																														
第14回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	泉良太																														
第15回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	泉良太																														

学修方法	講義を行ったのちに関連文献について発表を行い、その内容についてディスカッションをする
評価方法	発表内容（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する
課題に対するフィードバック	発表とディスカッション内容に基づき、適宜、履修者の研究計画立案の足がかりとなるようなフィードバックを行う
指定図書	特に指定しない
参考書	必要に応じて随時紹介する
学修方法	講義、ディスカッション、報告を中心に進める。
事前・事後学修	授業ごとに指示をする
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科、3515 研究室 時間については初回授業時に提示します。

科目名	作業療法開発学特論Ⅱ																																
科目責任者	伊藤 信寿																																
単位数他	2単位(30 時間) 選択 秋semester																																
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																																
科目概要	作業療法関連領域における最新の研究動向に触れ、臨床における解決すべき課題について検討する。さらに関心をもつ研究テーマ、研究課題について、検証方法、データに基づく分析方法を作成することを目標とする。																																
到達目標	1. 関心のある分野における研究動向や研究課題について説明できる 2. 各領域における研究課題について、検証方法、分析方法を説明、作成できる。																																
授業計画	最新の文献を読みながら、各領域において履修生が関心をもつ研究テーマについて、さらに文献検索、内容について簡単なレジュメを作成して紹介し、ディスカッションする。さらに、各領域における関心のある研究テーマについて、研究デザインを作成、検討する。 <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回. コースオリエンテーション</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第2回. 発達領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第3回. 発達領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第4回. 発達領域における研究デザインの作成・検討3</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第5回. 発達領域における研究デザインの作成・検討4</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第6回. 身体領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td>泉良太</td> </tr> <tr> <td>第7回. 身体領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td>泉良太</td> </tr> <tr> <td>第8回. 身体領域における研究デザインの作成・検討3</td> <td>泉良太</td> </tr> <tr> <td>第9回. 精神領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第10回. 精神領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第11回. 精神領域における研究デザインの作成・検討3</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第12回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討1</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第13回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討2</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第14回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討3</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第15回. 全体のまとめ</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回. コースオリエンテーション	伊藤信寿	第2回. 発達領域における研究デザインの作成・検討1	伊藤信寿	第3回. 発達領域における研究デザインの作成・検討2	伊藤信寿	第4回. 発達領域における研究デザインの作成・検討3	伊藤信寿	第5回. 発達領域における研究デザインの作成・検討4	伊藤信寿	第6回. 身体領域における研究デザインの作成・検討1	泉良太	第7回. 身体領域における研究デザインの作成・検討2	泉良太	第8回. 身体領域における研究デザインの作成・検討3	泉良太	第9回. 精神領域における研究デザインの作成・検討1	新宮尚人	第10回. 精神領域における研究デザインの作成・検討2	新宮尚人	第11回. 精神領域における研究デザインの作成・検討3	新宮尚人	第12回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討1	田島明子	第13回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討2	田島明子	第14回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討3	田島明子	第15回. 全体のまとめ	伊藤信寿
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回. コースオリエンテーション	伊藤信寿																																
第2回. 発達領域における研究デザインの作成・検討1	伊藤信寿																																
第3回. 発達領域における研究デザインの作成・検討2	伊藤信寿																																
第4回. 発達領域における研究デザインの作成・検討3	伊藤信寿																																
第5回. 発達領域における研究デザインの作成・検討4	伊藤信寿																																
第6回. 身体領域における研究デザインの作成・検討1	泉良太																																
第7回. 身体領域における研究デザインの作成・検討2	泉良太																																
第8回. 身体領域における研究デザインの作成・検討3	泉良太																																
第9回. 精神領域における研究デザインの作成・検討1	新宮尚人																																
第10回. 精神領域における研究デザインの作成・検討2	新宮尚人																																
第11回. 精神領域における研究デザインの作成・検討3	新宮尚人																																
第12回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討1	田島明子																																
第13回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討2	田島明子																																
第14回. 老年期領域における研究デザインの作成・検討3	田島明子																																
第15回. 全体のまとめ	伊藤信寿																																

学修方法	講義、ディスカッション、報告を中心に進める
評価方法	発表内容（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する
課題に対するフィードバック	課題の報告後に、フィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	必要に応じて随時紹介する
事前・事後学修	事前学修：オリエンテーション時に、各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する
オフィスアワー	メール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なく連絡してください。

科目名	作業療法開発学特論演習
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	2 単位 (30 時間) 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	精神障害作業療法における評価とアプローチ法についての文献（特に事例を含むもの）を精読することで、精神障害作業療法領域の課題を見出し研究へと応用できることを目標とする。 研究計画書の作成に向けて、先行研究を吟味・検討した上で、具体的な研究テーマの設定、研究計画の立案を行う。
到達目標	・ 障害の特性を踏まえた基本的な研究プロセスについて説明できる ・ 研究計画書の作成に必要な要素を説明できる
授業計画	< 授業内容・テーマ等 > 担当教員：新宮尚人 ※授業日程は、受講者との相談の上、決定する 第 1 回：コースオリエンテーション 第 2 回：研究計画立案方法について 第 3 回：研究プロセスとアウトカムについて 第 4 回：評価尺度の信頼性と妥当性 第 5 回：調査票の作成と予備研究 第 6 回：データ収集方法について 第 7 回：データ分析方法について 第 8 回：報告および論文作成の基本的知識 第 9 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 10 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 11 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 12 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 13 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 14 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング 第 15 回：研究計画作成に向けての個別ミーティング

学修方法	自身の興味に関連した論文を精読し、研究方法（対象、手続き、評価尺度、分析方法など）を吟味することを通じて、具体的な研究計画書を作成します。
評価方法	計画書の完成度（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。
指定図書	特に指定しない
参考書	授業中に随時提示する
事前・事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業療法開発学特論演習
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2 単位(30 時間) 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	関心をもつ研究テーマ、研究課題について、検証方法、データに基づく分析方法を作成することを目標とする。さらに、アウトカムを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究計画書作成への足掛かりとすることを旨とする。
到達目標	1. 関心をもつ研究領域における研究動向や研究課題について説明できる 2. 研究テーマにおける研究課題について、研究計画書を作成できる。
授業計画	関心をもつ研究テーマについて、文献検索、内容について簡単なレジュメを作成して紹介し、ディスカッションする。さらに、各領域における関心のある研究テーマについて、研究デザインを作成、検討する。 ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回. コースオリエンテーション 第2回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読1 第3回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読2 第4回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読3 第5回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読4 第6回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読5 第7回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討1 第8回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討2 第9回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討3 第10回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討4 第11回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討5 第12回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討6 第13回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討7 第14回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討8 第15回. 全体のまとめ

学修方法	ディスカッション、報告を中心に進める
評価方法	レジュメの作成（50％）と、発表内容（50％）により評価する
課題に対するフィードバック	課題の報告後に、フィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	必要に応じて随時紹介する
事前・事後学修	事前学修：各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する
オフィスアワー	メール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なく連絡してください。

科目名	作業療法開発学特論演習
科目責任者	田島明子
単位数他	2 単位 30 時間 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	関心をもつ研究領域の先行文献を検索し、研究テーマを選定し、研究目的、研究対象、研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。
到達目標	1. 関心をもつ研究領域における研究動向や研究課題について説明できる。 2. 研究テーマにおける研究課題について、研究計画書を作成できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 関心をもつ研究テーマについて先行文献を検索し、それについてレジュメを作成して紹介し、ディスカッションする。さらに、関心のある研究テーマかた研究目的や研究対象、研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。 ＜授業内容・テーマ等＞ 第1回. コースオリエンテーション 第2回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読1 第3回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読2 第4回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読3 第5回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読4 第6回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読5 第7回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読6 第8回. 研究テーマにおける研究計画の立案・検討1 第9回. 研究テーマにおける研究計画の立案・検討2 第10回. 研究テーマにおける研究計画の立案・検討3 第11回. 研究テーマにおける研究計画の立案・検討4 第12回. 研究テーマにおける研究計画の立案・検討5 第13回. 研究テーマにおける研究計画の立案・検討6 第14回. 研究テーマにおける研究計画の立案・検討7 第15回. 全体のまとめ

評価方法	講義への参加状況 50% 発表とレジュメ 50%
課題に対するフィードバック	課題の報告後に、フィードバックを行う
指定図書	キャサリン・ポープ、ニコラス・メイズ（大滝純司監訳）2008『質的研究実践ガイドー保健医療サービス向上のために（第2版）』医学書院。 萱間真美 2007『質的研究実践ノートー研究プロセスを進める clue とポイント』医学書院
参考書	適宜、講義のなかで紹介する
事前学習・課題等	事前学修：各回において課題の事前のテーマを示す 事後学修：報告後に指摘された内容を修正する
オフィスアワー	2017 年度のオフィスアワーについては初回講義の際に提示します。 メール（akiko-t@seirei.ac.jp）で遠慮なく連絡してください。

科目名	作業療法学特別研究	
研究指導教員	伊藤信寿 小田原悦子 新宮尚人 田島明子 宮前珠子 泉良太 (研究指導教員は領域および課題によって決まる)	
研究指導教員		
単位数他	8 単位 (120 時間) 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	修士論文を作成するために必要な作業療法科学分野の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)
	1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。	発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。	研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)
	2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。	論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の貞節性 (30%)

評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	口頭によるコメント、書面提出物についてはコメントを記載し迅速にフィードバックする
指定図書	なし
参考書	必要に応じて随時紹介する
事前・事後学修	随時指定
オフィスアワー	初回授業時に呈示

科目名	言語聴覚障害学特論Ⅰ
科目責任者	大原 重洋
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	言語獲得前の聴覚障害によって言語、心理、社会的課題が子どもに生ずる機序について、体系的に学び、専門的知識を深めることを目標とする。
到達目標	1. 小児聴覚障害学に関する主要な理論と新しい知見を体系的に理解する。 2. 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：正常な聴覚機能のメカニズムについて① 第 3 回：正常な聴覚機能のメカニズムについて② 第 4 回：新生児聴覚スクリーニングによる早期難聴発見の効果と医学的課題① 第 5 回：新生児聴覚スクリーニングによる早期難聴発見の効果と医学的課題② 第 6 回：乳幼児期の聴力評価法① 第 7 回：乳幼児期の聴力評価法② 第 8 回：聴覚補償：補聴器 第 9 回：聴覚補償：人工内耳、FM 補聴システム 第 10 回：療育と家族支援 第 11 回：文献抄読：乳児期から学童期の言語発達 第 12 回：文献抄読：インクルーシブ環境におけるコミュニケーション 第 13 回：文献抄読：メタ認知の発達と遅れ 第 14 回：文献抄読：ナラティブの評価と発達① 第 15 回：文献抄読：ナラティブの評価と発達②

学修方法	講義、発表、討論
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・発表・レポート 70%
課題に対するフィードバック	授業内容についての疑問点については、その場でフィードバックする。発表資料、レポートについては、資料を校閲し返却する。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	指定図書、文献を読んで、内容と疑問点を纏める。
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	言語聴覚障害学特論Ⅱ																																
科目責任者	佐藤 順子																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター																																
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。																																
科目概要	失語症学およびその治療法に関して最新の理論を含め総合的な理解と知識の体系化を図ります。高次脳機能障害や認知症の症状、臨床とリハビリテーションについて理解と知識の体系化を図ります。また、実践的な医療技術や研究方法の修得を行うとともに、新たな評価や治療方法の開発について研究し、失語症学分野および高次脳機能障害や認知症における高度な臨床技術の実践や科学的研究のできる人材の育成を目指します。																																
到達目標	失語症学、高次脳機能障害や認知症に関する新知見を体系的に理解する。 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td><td><担当教員名></td></tr> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション</td><td>佐藤順子・谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 2 回：さまざまな言語症状について</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境</td><td>谷 哲夫</td></tr> <tr> <td>第 9 回：様々な高次脳機能障害について</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr> <td>第 10 回：記憶障害の症状と診断</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr> <td>第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr> <td>第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr> <td>第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr> <td>第 14 回：認知症研の症状と診断</td><td>佐藤順子</td></tr> <tr> <td>第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション</td><td>佐藤順子</td></tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：オリエンテーション	佐藤順子・谷 哲夫	第 2 回：さまざまな言語症状について	谷 哲夫	第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用	谷 哲夫	第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用	谷 哲夫	第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用	谷 哲夫	第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究	谷 哲夫	第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果	谷 哲夫	第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境	谷 哲夫	第 9 回：様々な高次脳機能障害について	佐藤順子	第 10 回：記憶障害の症状と診断	佐藤順子	第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション	佐藤順子	第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断	佐藤順子	第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション	佐藤順子	第 14 回：認知症研の症状と診断	佐藤順子	第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション	佐藤順子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回：オリエンテーション	佐藤順子・谷 哲夫																																
第 2 回：さまざまな言語症状について	谷 哲夫																																
第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用	谷 哲夫																																
第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用	谷 哲夫																																
第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用	谷 哲夫																																
第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究	谷 哲夫																																
第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果	谷 哲夫																																
第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境	谷 哲夫																																
第 9 回：様々な高次脳機能障害について	佐藤順子																																
第 10 回：記憶障害の症状と診断	佐藤順子																																
第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション	佐藤順子																																
第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断	佐藤順子																																
第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション	佐藤順子																																
第 14 回：認知症研の症状と診断	佐藤順子																																
第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション	佐藤順子																																

学修方法	講義および討論
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・レポート 70%
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学 第2版」医学書院 藤田郁代、阿部晶子編集「高次脳機能障害学 第2版」医学書院
参考書	授業の中で適宜紹介をする
事前・事後学修	教科書の予習 授業の中で適宜指示する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 佐藤順子：3407 研究室 毎週月曜日 IV限 (junko-sa@seirei.ac.jp) 谷 哲夫：3406 研究室 毎週月曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	言語聴覚障害学特論演習
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2 単位（30 時間） 言語選択 春semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案を行う
到達目標	1. 各種研究法を理解する 2. 客観的な文献レビューができる 3. データの収集、および分析方法について知識を深める
授業計画	<担当教員名> 佐藤順子、谷 哲夫、大原重洋 <授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：研究計画立案までの手順について 第 3 回：研究方法について 第 4 回：データ収集方法について 第 5 回：データの分析方法について 第 6 回－15 回：研究計画立案に向けたディスカッション

学修方法	講義および討論
評価方法	計画書の完成度 90% 主体的参加状況 10%
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う
指定図書	「言語障害の研究入門」伊藤元信，協同医書，2008 「臨床データのまとめかた」三宅由子，杏林書院，2001
参考書	なし
事前・事後学修	指定図書を事前に読んで理解する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 佐藤順子：3407 研究室 毎週月曜日 IV限 (junko-sa@seirei.ac.jp) 谷 哲夫：3406 研究室 毎週月曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 大原重洋：3305 研究室 毎週月曜日 IV限 (shigehiro-o@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	摂食嚥下障害学特論Ⅰ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2単位（30時間） 春セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	摂食嚥下障害学における新しい理論や病態について体系的に学ぶと共に、専門知識をさらに深めることを目標とする。文献抄読と討論を中心に進める。
到達目標	・摂食嚥下障害に関する新知見を体系的に理解する。 ・文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：摂食嚥下メカニズム（動物） 第3回：摂食嚥下メカニズム（人間） 第4回：摂食嚥下の神経制御機構 第5回：摂食嚥下機能の発達 第6回：摂食嚥下の評価理論（画像評価・運動学的評価・知覚評価） 第7回：摂食嚥下の評価理論（Evidence based Clinical Assessments） 第8回：神経原性嚥下障害の病態（脳血管疾患） 第9回：神経原生嚥下障害の病態（神経変性疾患） 第10回：呼吸器疾患による嚥下障害の病態 第11回：構造的原因による嚥下障害の病態 第12回：消化器疾患と嚥下障害 第13回：老化と嚥下障害 第14回：医原性嚥下障害 第15回：文献抄読、発表

学修方法	グループ学習やMoodle 等を用いて学修を行います。
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・発表・レポート 70%
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。
指定図書	高橋浩二編：「Groher&Crary の嚥下障害の臨床マネジメント」 医歯薬出版
事前・事後学修	テキストおよび文献を読んで、まとめること。
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	摂食嚥下障害学特論Ⅱ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (30 時間) 秋セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	摂食嚥下障害学における評価および治療理論について体系的に学ぶと共に、専門知識をさらに深めることを目標とする。文献抄読と討論を中心に進める。
到達目標	・摂食嚥下障害に関する新知見を体系的に理解する。 ・文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：摂食嚥下障害の評価結果と治療戦略 第3回：摂食嚥下障害の治療理論 (Evidence based Practice) 第4回：基礎的嚥下訓練と摂食訓練 第5回：嚥下調整食基準と治療への応用 第6回：運動学習理論と運動訓練 (口腔運動訓練・嚥下反射・摂食動作) 第7回：神経筋刺激訓練 (電気刺激法・磁気刺激法) 第8回：呼吸・発声訓練 第9回：外科的治療 第10回：摂食嚥下訓練と栄養 第11回：服薬方法の選択 第13回：口腔衛生と摂食訓練 第14回：摂食嚥下障害治療のリスクマネジメント 第15回：訓練計画立案と家族指導 (症例検討)

学修方法	グループ学習やMoodle等を用いて学修を行います。
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・発表・レポート 70%
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。
指定図書	藤島一郎・柴本勇：摂食嚥下障害のリスクマネジメント 中山書店
事前・事後学修	教科書の予習・文献詳読・症例検討
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	摂食嚥下障害学特論演習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (30 時間) 春semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案をおこなう。
到達目標	・ 各種研究法を理解する。 ・ 客観的な文献レビューができる。 ・ 研究計画を立案できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：研究計画立案までの手順について 第3回：研究方法について 第4回：データの収集方法について 第5回：データの分析方法について 第6回—15回：研究計画立案に向けたディスカッション

学修方法	グループ学習やMoodle等を用いて学修を行います。
評価方法	計画書の完成度（90％）と、主体的参加状況（10％）により評価する。
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。
指定図書	言語障害の研究入門」伊藤元信、協同医書、2008 「臨床データのまとめかた」三宅由子、杏林書院、2001
事前・事後学修	教科書の予習・文献詳読
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	言語聴覚学特別研究	
研究指導教員	柴本 勇 佐藤順子 谷 哲夫 大原重洋 (研究指導教員は領域および課題によって決まる)	
研究指導教員		
単位数他	8 単位数 (120 時間) 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	修士論文を作成するために必要な言語聴覚学分野の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)
	1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。	発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。	研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)
	2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。	論文の完成度 (70%) 第3者の評価による修正の貞節性 (30%)

学修方法	ディスカッション、発表を通して行う
評価方法	上記、右欄に示した評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	口頭によるコメント、書面提出物についてはコメントを記載し迅速にフィードバックする
指定図書	なし
事前・事後学修	随時指定
オフィスアワー	初回授業時に呈示